

保育園の高台移転と安全な教育環境の確保について / 津田隆

保育所の高台移転建設について。令和5年の9月定例議会でも取り上げましたが、保育所の高台移転建設について再度質問します。7月30日にカムチャッカ半島東方沖で発生したマグニチュード8.8の大地震により、沖縄にも津波注意報が発表され、伊平屋保育所の園児が高台へ避難しました。その後、伊平屋保育所の職員に聞き取り調査を行ったところ、自力では避難できない園児の避難誘導が大きな負担となっている様子がうかがえました。もし沖縄の琉球海溝で大地震が発生した場合、短時間で津波が押し寄せることが想定されており、地震の揺れが続く中での園児の避難はより困難なものとなります。

また、現在の保育所は昭和56年に建設され、老朽化から雨漏り、コンクリートの劣化が起こっており、地震の揺れに対しても脆弱さが念懸されています。保育所の高台移転建設については優先して行うべきだと考えます。進行状況をお伺いします。

■議長（金城信光） 答弁、新垣晃弘福祉保健課長。

■新垣晃弘福祉保健課長 津田議員のご質問にお答えします。津田議員の見解のとおり、保育所の前面が海、背面は斜面の場所であるため、災害時の避難の際に安全確保が厳しい状況であるというのと、また、老朽化による施設の維持管理等にも費用がかかってくるような状況であります。安心安全な保育を提供するためには、やはり高台への移転は重要事項だと考えております。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 いろいろ調べたんですけれども、沖縄の歴史を調べれば、1771年に発生した八重山地震等による大津波により 1万2千人もの人命が失われたと書かれていました。1960年には南米で発生したチリ地震による遠方津波により、沖縄県内では3名の死者、住宅の全壊、半壊が多数発生。さらには名護市の屋我地大橋が流失するなどの大きな被害も出ております。現実には沖縄の津波被害が起きているという歴史がある以上、津波は必ず来るものとして備えることが大事だと考えます。

また、私がいろんな情報を調べてもこの情報は載っていないんだけど、私が卒業した年の伊平屋丸に乗った船員時代に津波が来ています。実際に、船のロープが切れて、今の村長のホテルの下のチーチ石ってあったんですけども、そこに一旦は船を浜に乗せあげられて、また引き波で途中で戻されて、そこで引っかかって2日、3日かかってみんなで穴を掘って引っ張り出したという経験をしています。

あれから考えると、今はテトラとかいっぱい積んでいるんで、ちょっとした津波でもかなり高く上がるんじゃないかと懸念^{けねん}しています。その思いもあって、2回目の質問ですけれども、一日も早く移転して、子どもたちも先生たちも安心させたいと考えています。

前回質問した時はプールの跡地に設置したいと言っています。プールも老朽化でしたら、やっぱりそこが一番いいかなと。場所的にもいいかなと。造る時は、ついでに村民の避難場所として、子どもたちも親も避難できるような施設として使えるようにしたり、また、園児を預かる先生たちの意見、教育の場として何十年先を見

据えた建設をしてほしいと考えています。以上、質問を終わります。一日も早くよろしくお願ひします。